

令和7年度 美馬市社会福祉協議会事業報告

地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として、住民主体の理念に基づき、住民や地域の関係者との協働により、「ともに生きる豊かな地域社会」を創造することを使命とし、地域共生社会の実現に向けて、第5次社協発展・強化計画に基づいた事業の推進に取り組んだ。

事務局及び総務課では、年度を通して理事会等をはじめとする会務の適正な運営に取り組むとともに、改正が必要な諸規程の見直しを行った。また、将来にわたって持続可能な経営基盤の確立をめざし、今後の事業運営のあり方について内部検討を重ねるとともに、市担当部署との協議にも取り組んだ。

地域福祉課では、第4次地域福祉活動計画の推進1年目として、計画ダイジェスト版の全戸配付、報告会の開催等により、地域住民への啓発に取り組むとともに、各地区推進委員会を通して今後のミマモール活動の普及等について協議を重ねた。また、災害時にも地域の助け合いが機能するよう「支え合いマップ」を推進するとともに、小地域生活支援ネットワーク活動やふれあい・いきいきサロン活動等の推進を通して、平常時から地域の支え合いの必要性を発信した。なお、相談支援業務については、幅広い層への相談支援体制の充実に向け、次年度より定期的にナイト相談窓口を開設することとした。

在宅福祉サービス課では、定期連絡調整会議等を通して各事業所の収入確認、課題やその解決に向けた検討に併せ、ヒヤリハットや苦情等を共有し、事業所全体のレベルアップに努めた。また、急務である収支課題の改善に向け、他部門職員と協働し利用者獲得に努めるとともに、利用者数に応じた人員(職員)配置の見直しを行ったが、人件費の引き上げ等も起因し、改善に至らなかった。なお、市担当部署と指定管理施設の運営について協議を重ねた結果、次年度からつるぎの里の営業日縮減、中山間地域への補助等の収支改善に向けた取組を図ることができた。

I 事務局・総務課

1 総合的企画・普及事業

(1) 社協運営・財政基盤強化

- ① 理事会の開催 (5回 内1回書面)
- ② 評議員会の開催 (3回)
- ③ 監査の開催 (監事監査1回、外部監査1回、行政指導監査1回)
- ④ 評議員選任・解任委員会の開催 (2回)
- ⑤ 第三者委員会の開催 (1回)
- ⑥ 安全衛生委員会の開催 (12回)
- ⑦ 発展強化計画推進会議 (5回)
- ⑧ 諸規程の見直し (準職員等就業規則、登録ホームヘルパー職員就業規則、職員の給与・退職手当等に関する規程、デイ・ヘルパーステーション運営規程、服務規程)

理事会、評議員会をはじめとする会務の運営を適正に行うことができた。また、市との調整を行いながら規則等を改正し、人事院勧告や最低賃金の改定による職員の処遇改善に取り組んだ。今後も業務の効率化を図りながら適正な法人運営に取り組んでいく。

(2) 役職員研修

① 役員研修（7月14日 役員4名）

② 職員研修（職員全体研修2回、新任職員研修11回）

役員研修として県社協のトップセミナーに参加し、地域共生社会への理解を深めることができた。
研修参加により各々のスキルアップにつなげるとともに、研修での学びを業務に取り入れていく。

(3) 広報啓発活動

① 広報紙「ふくしの木」発行（2回×10,500部）

② ホームページによる情報発信（随時）

③ 美馬市広報紙への記事掲載（12回）

④ 美馬市自主放送チャンネル（12回）

広報紙の発行については、広報委員会での協議、校正を重ね、わかりやすい紙面作りに努めた。
また、ホームページでは介護部門も含めて最新の情報更新ができるよう取り組んだ。今後も広報媒体を積極的に活用し、地域住民に向けた情報発信に努めていく。

2 地域福祉推進活動事業

(1) 社会福祉大会

① 市社会福祉大会の開催（10月9日 うだつアリーナ 参加者 約250名）

② 大会表彰関係（本市関係者、関係団体）

- ・市 表彰者 12名 感謝状1名1団体
- ・県 表彰者 5名
- ・全国 表彰者 1名

(2) 善意銀行

① 一般寄附（8件 724,780円）

② 香典返し寄附（1件 100,000円）

③ 物品預託（35件 454,419円相当）

寄附金については地域福祉の推進等に活用し、食料品等の物品預託については随時生活困窮者世帯の支援に活用した。引き続き広報紙等を活用した周知に取り組むとともに、預託金の効果的な活用を検討していく。

(3) 社協会員会費募集（会費実績 3,432,000円）

会員数の減少に加え納入額が減少している現状を踏まえ、多くの住民に対し社協活動を周知し社協会員会費への理解を求めていく。

3 社会貢献事業

(1) 美馬市くらしサポートネット事業

① 会議の開催（運営委員会 1回、定例会 12回）

② コミュニティカフェ（4回 143名）

③ なんでも相談窓口（各法人窓口：随時、特設相談：8回）

市内法人間で連携し、定例会や事業に取り組み情報共有を図ることができた。今後、地域生活課題につながる研修会の開催や法人間連携に取り組んでいく。

Ⅱ 地域福祉課

<地域福祉推進担当>

1 地域福祉活動推進事業

(1)社会福祉援助技術現場実習等受入

・8月12日～9月12日(25日間 実習生2校3名)

・9月4日 (インターン1名)

実習の受け入れを通して、指導担当した職員の資質向上につながった。引き続き、実習生が希望する実習テーマに沿った指導が円滑にできるよう、実習指導者の増員に取り組んでいく。

(2)第4次地域福祉活動計画の推進 ◎重点事業

①第4次地域福祉活動計画

○報告会(4月21日 延べ200名)

○推進委員会

・美馬地区(6回 延べ69名)

・脇町地区(6回 延べ73名)

・穴吹地区(6回 延べ65名)

・木屋平地区(6回 延べ41名)

第4次計画ダイジェスト版を全戸に配付するとともに、報告会を開催し、5カ年計画の周知・啓発に取り組んだ。各地区の推進委員へ十分な説明、研修の時間を持ったことで計画の理解が深まり、ミマモール活動のチラシ作成や地域の情報共有を図れた。

また、各地区並びに市全体で計画の推進状況の評価を行ったことで、自治会域でのミマモール活動の啓発や地域の課題を話し合う場づくりが一部に留まっている現状が明確になった。引き続き、地区担当職員と推進委員が協力して、自治会域等でのミマモール活動の普及と地域の課題発見、話し合いの場づくりに取り組んでいく。

(3)小地域福祉活動助成

①ふれあい・いきいきサロン(85ヵ所)

②小地域生活支援ネットワーク(164ヵ所)

(4)地域福祉推進公募配分金(10団体 578,000円)

(5)ふれあい・いきいきサロン活動支援・助成(75ヵ所)

(6)在宅福祉事業

①福祉機器リサイクル(貸出実績 25名 延べ37台)

②穴吹地区ひとり暮らし高齢者配食サービス(8回 延べ214食)

③木屋平地区ひとり暮らし高齢者昼食会(10月1日 57名)

(7)地域共生社会実現事業

①事業推進調整会議(4回 延べ43名)

②地区別定例会

- ・美馬地区（6回 延べ39名）
- ・脇町地区（5回 延べ38名）
- ・穴吹地区（5回 延べ42名）
- ・木屋平地区（6回 延べ28名）

事業推進調整会議は、第4次地域福祉活動計画に基づく各地区推進委員会の進捗状況や地域活動について情報共有する場として定着した。各地区定例会では、第4次地域福祉活動計画の理解を深め、ソーシャルワーク会議（個別ケースの検討）で局内連携・協働を考える良い機会となり、地域住民を巻き込んだ地域生活支援の実践につながるケースもあった。また、88歳在宅高齢者の生活実態調査を終え、気になるケースについては地区定例会で共有し、対応等を検討した結果、他機関につなぐこともできた。

今後も引き続き、内部連携に取り組みながら、他機関等との専門職連携を構築していく。

(8)つながりワーカー事業（8回 延べ146名）

(9)日赤活動支援費募集事務

- ①活動支援費募集（目標額4,653,000円 実績3,663,528円）
- ②献血（献血3回実施 献血実績者107名）

(10)共同募金事務（目標額3,512,300円 実績3,648,569円）

(11)ボランティア市民活動センター事業 ◎重点事業

- ①運営委員会（2回）
- ②ボランティア登録者管理（3,036名 内団体366・個人64）
- ③ボランティア保険取り扱い（加入1,798名、事故処理1件）
- ④コーディネート(福祉教育を含む)（13回 延べ143名）

生活支援から研修・各種イベントまで幅広い活動へ、地域住民・専門職・学生等をコーディネートすることができた。また、災害ボランティアセンター設置運営に向け、協ライオンズクラブと美馬青年会議所の2団体との活動支援協定を締結し、災害時の対応や協力体制に加え、平時からの連携を図ることができた。

引き続き、地域のニーズ把握に努め、担い手の発掘・確保を図り、地域全体で支え合う体制づくりを目指していく。

2 地域介護予防活動支援事業

(1)介護予防サポーター養成・フォローアップ研修

- ①介護予防サポーター養成（8月17日 26名）
- ②フォローアップ研修（8月17日 33名）

介護予防サポーター養成では、新たに17名が介護予防サポーターとして登録された。また、フォローアップ研修の実施により、サポーターのスキルアップにつながった。

今後もサポーターが地域で活動できるように、情報提供や啓発・支援を行っていく。

(2)介護予防啓発事業

- ①サロン活動支援（38回 延べ277名）

- ②介護予防教室 (12回 延べ127名)
- ③サポーター派遣調整 (27回)
- ④サロン立ち上げ (11カ所)

立ち上げに向けた助言やレク指導、活動の有効性について説明を行った結果、広域サロンを含め、新たに11カ所のサロンが立ち上がった。

(3)いきいき百歳体操推進事業

- ①定期測定 (48地区 延べ348名)
- ②アウトリーチ (9地区 13回)

24地区で各2回の機能測定を行ったが、前年度と比べて大幅に参加者が減少している。活動支援により把握した各種課題(測定時の他人との比較や開催時期)等に対処するとともに、介護予防効果(痛みの軽減等)を周知・啓発し、参加者の増員に取り組んでいく。

3 生活支援体制整備事業

(1)支え合い協議体事業 ◎重点事業

- ①第1層協議体(会議参加1回、事業推進2回)
- ②第2層協議体開催
 - ・美馬地区 (6回 延べ69名)
 - ・脇町地区 (6回 延べ73名)
 - ・穴吹地区 (6回 延べ65名)
 - ・木屋平地区 (6回 延べ41名)
- ③研修会参加 (7回)
- ④在宅高齢者個別訪問調査 (9月1日～30日 195名)

各地区地域福祉活動計画推進委員会を第2層協議体に位置づけ、地域情報を共有したことで、一部の地区では地域の課題等を話し合い解決に向け協議することができた。

また、生活支援コーディネーターとしては、生活課題を抱える住民に対し、局内で連携し、地域住民や関係機関を巻き込んだ見守り活動や支援活動へとつながったケースもあった。

引き続き、地域での見守り協働や支援活動の拡充に向け、地域の課題の気づき、その課題と解決に向けて話し合う場を、第2層協議体を含め地域に作っていく。

4 認知症高齢者見守り事業

(1)小地域生活支援ネットワークの推進 ◎重点事業

- ①小ネット定例会等 (22カ所 延べ253名)
- ②情報共有・啓発 (86カ所 延べ182名)
- ③小ネット立ち上げ (5カ所)

第4次地域福祉活動計画推進委員と協力し推進したことで、新たに5カ所で小ネット活動に取り組むことにつながった。また、生活課題を抱える住民宅へ関係者(民生委員・小ネット協力員等)とともに訪問する等、地域の見守り体制の構築を図った。

一部の小ネット会議への参加となっている現状を踏まえ、今後は、小ネット活動の状況把握に向けて計画的に全地域へ出向き、年間計画の提出がない地域には、活動内容の説明から、活動の継続に向けた支援に取り組んでいく。

(2)認知症サポーター養成 (10回 延べ256名)

(3)認知症の人と家族のつどい(オレンジの会)開催 (10回 延べ190名)

5 地域生活支援事業

(1)点字・声の広報等発行事業 (発行12回、利用者6名、朗読ボランティア20名)

(2)手話奉仕員養成研修 (6月4日～11月12日 受講者16名・内新規10名)

6 シルバー大学校美馬校管理運営事業

(6月10日～3月13日 総合コース12名・ICTコース12名)

7 共助力強化推進事業 ◎重点事業

(1)支え合いマップ更新・見直し (更新43組織、見直し32組織)

福祉委員への啓発等により、新たに43組織でマップの更新をすることができた。令和3年度から5カ年で全地域の更新に取り組んできたが、5組織は更新に至らなかった。また、集落支援員等の関係者と協働して推進する体制を構築できたことで、定期的な見直しに取り組む地域も増加している。

8 当事者団体の支援

(1)美馬市老人クラブ連合会

(2)美馬市身体障害者連合会

(3)美馬市手をつなぐ育成会

(4)美馬市母子寡婦福祉連合会

(5)美馬市遺族会

各団体の事務局として総会、役員会、各種行事等、自主活動を支援した。また、各種団体活動の年間業務マニュアルの作成とデータ整理にも取り組んだ。

<相談支援担当>

1 ふれあい福祉総合相談業務 ◎重点事業

(1)一般相談 (109件)

(2)専門相談

①弁護士相談 (64件)

②司法書士相談 (24件)

③土地家屋調査士相談 (1件)

④終活相談 (6件)

一般相談は、電話相談件数のカウント反映もあり、前年度から96件増加した。多様化する相談内容ではあるが、生活困窮者自立支援事業や専門相談等につなぎ、解決に向けた支援に取り組んだ。制度の枠組みに収まらない「困りごと」の最初の受け皿となるため、適切な判断と調整が求められている。

次年度より、これまで支援につながりにくかった層へのアクセスを拡充するため、相談機会の確保及び早期支援につなげることを目的にナイト相談を実施していく。

2 生活困窮者自立支援業務

(1)自立相談支援

①相談支援実績

・新規相談（85件）・支援実績（1,308回）・プラン件数（40件）

②支援調整会議（12回）

③運営推進協議会（2回）

(2)就労準備支援

・支援対象者（7名）・プラン件数（6件）

・支援実績（延べ139回）

(3)家計改善支援

①相談支援実績

・支援対象者（8名）

・プラン件数（11件）

②食料品支援（157回）

自立相談支援では、問題を抱えているが継続的な支援を拒否するため、解決に至らないケースが一定数生じている。就労準備支援では、就労を希望する7名のうち、本人との信頼関係を築き、4名のプランを作成することができた。

相談者の多くは金銭的な問題を抱える家計改善支援が必要なケースであることから、引き続き本人の負担にならない距離感での支援を継続し、信頼関係の構築を図り、プラン化につなげていく。

また、支援終了後も継続した見守りを要するケースには、支援機関や行政だけでなく、地域ボランティア・近隣住民による小さな気づきを拾い上げるネットワークの構築に取り組んでいく。

3 生活福祉資金貸付事業（相談件数215件 本則支援6件・内申請2件）

本則貸付に関する新規相談が増加しているが、申請に至ったのは2件であった。安易な貸付希望の相談や他機関から紹介のケースが増えるも、本事業の対象とならないケースが多く、該当しないケースに対しては他事業での支援に努めた。

4 地域支え合いセンター体制整備事業

・災害ケースマネジメント研修開催（8月19日 27名）

・各種研修参加（5回 延べ13名）

・視察研修（11月5日 6名）

地域支え合いセンター設置運営に向けて、災害ケースマネジメント研修会の開催、その他研修に参加し、地域支え合いセンターの理解や設置・運営について学習を深めた。また視察研修では、東広島市災害ボランティアセンターと地域支え合いセンターの運営から課題まで当時の担当職員から講話を受け、速やかな支え合いセンターの開設で被災者の一人一人に合わせた支援の必要性と関係機関との連携の重要性について学ぶ機会となった。

マニュアルの作成では、研修や視察で学んだことを盛り込みつつ、担当課と協議、情報共有しながら、美馬市地域支え合いセンター開設・運営マニュアルの骨子を作成することができた。

<権利擁護センター>

1 日常生活自立支援業務

(1)利用者件数（33件）

(2)相談援助件数 (延べ1,928件)

(3)会議の開催

①ケース会議 (32回)

②生活支援員定例会 (12回)

③絆ネット定例会参加 (12回)

居住地への移管に伴い担当件数は減少したが、相談援助件数が増えている。困難ケースでは関係機関と積極的にケース会議等を開催し、連携した支援や早急な対応を行った。また、専門員が定期訪問を実施し、利用者との信頼関係構築に取り組んだ。

2 法人後見業務

(1)受任件数 (23件)

(2)制度相談件数 (20回)

(3)会議等の開催

①運営委員会 (2回)

②市民後見人定例会 (3回)

③成年後見制度講演会 (11月10日 93名)

④市民後見人フォローアップ研修 (3月2日 13名)

⑤絆ネット定例会参加 (12回)

前年度の市民後見人養成講座の修了者5名のうち、3名が同行実習を終了したが、市民後見人バンクへの登録には至らなかった。現在、3名の市民後見人が活躍している。

利用者の死去に伴い、成年後見制度利用支援事業(最後の後見人報酬額が本人の財産を上回る場合)の助成金を申請するも、助成決定額が報酬審判の額に満たないケースが生じた。市民後見人にも同じことが起きており、報酬受領に関しての課題が残った。

Ⅲ 在宅福祉サービス課

1 介護サービス企画経営事業

(1)収支改善支援 (通年)

(2)資質向上への取り組み (通年)

2 事業別利用(支援)実績

(1)訪問介護事業

※延べ利用回数

事業名	月平均実人数	延べ支援回数	前年度実績(回数)
訪問介護	33.9 人	3,454 回	5,355 回
介護予防・日常生活支援総合事業	90.5 人	7,312 回	8,706 回
居宅介護・重度訪問介護	24.3 人	3,324 回	4,204 回
訪問介護・総合事業実費サービス	1.9 人	23 回	42 回
合計	150.6 人	14,113 回	18,307 回

当年度で50人程度新規利用者を受入れたが、前年度末(令和7年1月から3月の間)に、複数の登録ヘルパーの定年退職に伴う引き継ぎにより、新規利用者の受入れを中止していたことの影響や、入院や入所、死亡といった理由による利用休止や終了するケースが多くあり、全体で延べ支援回数が大幅に減少した。

今後も、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなどに訪問時間の空き情報などの提供を積極的に行い、利用者の増加に取り組む必要がある。また、毎年定年等により退職者がある中、4年以上登録ヘルパーの応募がない状況も踏まえ、人材課題についても引き続き検討する。

(2)居宅介護支援事業

※延べプラン件数

事業名	月平均実人数	延べプラン件数	前年度実績(件数)
ケアプラン(介護保険)	147.5 人	1,770 件	1,898 件
予防プラン	3.2 人	39 件	70 件
合計	150.7 人	1,809 件	1,968 件

当年度80件を超える新規利用に対応したが、利用者の入院や入所、死亡等による終了ケース、また予防に認定され他事業所が担当することもあり、延べプラン件数が減少した。地域の関係者や局内、関係機関と連携し、地域資源も活用しながら利用者支援を行った。

引き続き個々のスキルアップに併せ、インフォーマルサービスの活用や地域とのつながりを継続できるケアプランを作成していく。また、ICT 活用の検討を行い事務の効率化を図っていく。

(3)通所介護事業

※延べ利用人数

事業名	おちあい荘	池月苑	たがた	つるぎの里	合計	前年度実績
通所介護	1,652 人	2,846 人	2,734 人	179 人	7,411 人	7,725 人
介護予防・日常生活支援総合事業	1,830 人	2,787 人	3,832 人	1,292 人	9,741 人	9,546 人
生きがいデイサービス	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	43 人
総合事業実費サービス	49 人	0 人	8 人	106 人	163 人	120 人
お試しデイサービス	20 人	0 人	0 人	0 人	20 人	9 人
合計	3,551 人	5,633 人	6,574 人	1,577 人	17,335 人	17,443 人

利用者数は全体では前年度並みとなった。事業所ごとでは、池月苑、ライフケアたがたは増加、おちあい荘は減少した。地域の実情、利用状況等を踏まえ、つるぎの里は次年度より、開所日数を縮減し経費の削減を図っていくこととした。

高齢者対象の事業のため、月々の収入は安定していない状況である。安定した収入が継続して得られるように、居宅介護支援事業所や地域への広報活動はもちろんのこと、地域ニーズに合った専門性を示し、それを積極的にアピールしていく。

(4)生活支援ハウス事業

※3 月末入居者数

居室区分	おちあい荘	たがた	つるぎの里	合計	前年度実績
一人部屋	8 人	10 人	5 人	23 人	22 人
夫婦部屋	2 人	2 人	1 人	5 人	6 人
合計	10 人	12 人	6 人	28 人	28 人

前年度と比較し入居数に大きな増減はない。入居者数により指定管理料が定められているため、下半期に退去者が増加した時期には、局内協力により、入居者の獲得に取り組んだ。

入居者の高齢化により何らかの支援が必要な入居者が大半であるため、体調の変化、転倒事故などが起こらないように、定期的な巡回や声掛けを継続的に行っていく。

(5)配食サービス事業

※延べ利用人数

事業名	おちあい荘	池月苑	たがた	つるぎの里	合計	前年度実績
地域自立生活支援事業	2,061 人	1,250 人	2,173 人	520 人	6,004 人	6,148 人
サービス・活動事業	2,331 人	2,369 人	1,427 人	317 人	6,444 人	6,200 人
地域生活支援事業 生活サポート事業	153 人	111 人	0 人	0 人	264 人	299 人
独自配食サービス	474 人	793 人	1,340 人	597 人	3,204 人	3,162 人
合計	5,019 人	4,523 人	4,940 人	1,434 人	15,916 人	15,809 人

利用者の安否確認とともに、コミュニケーションも大切にしている。高騰する食材費や委託費等を考慮し、次年度より1食あたりの単価を引き上げることとした。

配達不在時には、安否確認ができるまで連絡をとるため、緊急時や不在時における連絡先の確認を定期的に行い、スムーズな対応ができるよう市の担当者や担当介護支援専門員、関係機関との連携を継続していく。

3 事業所別収支実績

※拠点別単年度収支額

事業所	収入	支出	収支差額	前年度収支差額
ヘルパーステーション	58,686,004 円	67,998,136 円	▲ 9,312,132 円	▲7,861,751 円
ケアプランセンター	28,633,240 円	35,126,719 円	▲ 6,493,479 円	▲ 138,189 円
おちあい荘	44,848,938 円	54,909,652 円	▲10,060,714 円	▲7,777,813 円
池月苑	45,203,904 円	49,054,846 円	▲ 3,850,942 円	▲5,867,612 円
たがた	71,667,898 円	64,227,303 円	7,440,595 円	4,567,754 円
つるぎの里	22,931,552 円	29,845,368 円	▲ 6,913,816 円	▲8,595,986 円
合計	271,971,536 円	301,162,024 円	▲29,190,488 円	▲25,673,597 円

各事業所所長・施設長による連絡調整会議では、各事業所の毎月の収入確認、報告事項や全体での課題提起、解決に向けた話し合いに併せ、ヒヤリハットや苦情なども共有し、事業所全体のレベルアップに努めた。

ヘルパーステーション、ケアプランセンター、おちあい荘ともに、新規利用者はあるものの入院や入所、死亡といった理由から実人数、延べ利用者数が大幅に減少したことにより収支が悪化した。池月苑、たがた、つるぎの里については、利用者の増減はあるものの大きな減少がなく安定した営業ができたことで収支改善につながったが、介護事業所全体では前年度より、収支が悪化した。月々の収入が安定しない介護サービス事業ではあるが、広報活動や地域への地道な営業活動等、収支改善への取組を行っていくとともに、随時、各事業所の利用者数を確認し、利用者数に応じた人員配置を継続していく。